

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474300245		
法人名	社会医療法人社団沼南会		
事業所名	グループホームぬまくま 3階		
所在地	広島県福山市沼隈町大字常石1284-3		
自己評価作成日	平成22年8月13日	評価結果市町村受理日	平成22年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市三吉町南1丁目11-31-大福ビル201
訪問調査日	平成22年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海と山に囲まれ、窓からみかん畑や春には桜が満開で四季折々の風景が眺められ、又町内は活気ある造船の街に位置し、いきいきと生活観が満ちている。ホームは病院を改築して3階、4階、5階の3ユニットからなる。1階に法人内の医院が併設して、主治医が常勤でいるので、健康面が安心出来、本人、家族も安心して暮らせることが出来ている。病院が母体で職員育成も研修計画を立て充実した研修体制で職員の質の向上を図れている。ケアサービスに関しては各階ごとの特徴を活かし、本人の希望を重視し個々の状態に合わせた支援を行っている。家族会も充実して2ヵ月ごとの家族会や花見や夏祭りなど一緒に参加され、外出支援にも協力されている。地域の進水式に参加したり、積極的に地域の行事に参加したり、地域の方もホームに交流会や消防訓練などに積極的に来て頂いて認知症の方の理解も徐々に慣れ親しんでおられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の病院が併設されているため、医療、看護、介護の3本柱で充実した支援となっている。また、日常的に訪問看護による健康管理ができていますので本人、家族も安心である。地域との交流にも取り組み地域貢献と社会資源の活用で相互の協力関係が出来ていて事業所へも気軽に訪問してもらえるようになり理解が得られ交流が深まっている。ケア面に於いても一人ひとりの思いを大切に家族と協力しながらその人に合った支援をされている。職員研修も年間計画を立て段階に応じた研修に参加し介護職としての質の向上が図られている。今では地域の一員として馴染みのある地で近隣の人達と触れ合いながら穏やかな暮らしができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(3階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・家族の皆様と一緒に思いやりをもって笑顔でいきいきとした人生を送る事ができる様安心・安全に暮らしているホームを目指します。各階スタッフルーム及びホールに掲示し、名札の裏に明記。ミーティング、勉強会等で再確認し実践している。	地域密着型サービスの意義が盛り込まれた理念を作り、誰でも目につきやすい場所に掲示したり、職員の名札の裏にも明記し理念がケアに反映されているか勉強会やミーティング等で話し合いお互いに確認し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、奉仕活動に参加したり一緒に消防訓練を行ったり、日常的の付き合いに努めており、ホームの行事に招待したりして交流に努めている。	地域行事などに積極的に参加し、地域の人達と触れ合う機会を多く持つよう取り組むと共に事業所の行事(夏祭り)にも来てもらなど日々交流に努めている。また、町づくり委員会にも出席し地域の一員として貢献できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の馴染みの方、友人など訪問されたり地域の夏祭り、敬老会等の行事支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議にて現状を報告し意見や要望など、法人内3グループホーム会議で検討し、全職員に周知しサービスの向上に努めている。	定期的に開催し、家族会の役員、地域の方、社会福祉協議会職員、民生委員、公民館館長、包括支援センター等の参加により、現状報告をされ、意見交換を行い、その中での意見を真摯に受け止め法人内で検討し質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同法人の居宅介護支援事業所を通じて市町村担当との連携に努め、また入居者の生活保護の担当者・社会福祉協議会の担当者との連携も行いお互いに行き来し協力している。	かけはしを利用されている利用者があるため、社会福祉協議会職員との連絡は密にしている。また、行政担当者との連携にも取り組まれ、問題点などに対しアドバイスや情報提供が得られるような関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より3グループホームで身体拘束廃止委員会を立ち上げ、グループホームで勉強会を行い身体拘束のないケアを行っている。	法人内の事業所と身体拘束廃止委員会を立ち上げ、事例を基に勉強会を行ったり、また、各フロアでも勉強会を実施し職員間で共有され拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人内研修会、ホーム勉強会にて学んでおり、全職員が日常の中での言動・行動に注意しあう関係で虐待がないよう防止、徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に社会福祉協議会、地域包括支援センターの担当者から日常生活自立支援事業や成年後見制度の勉強会を開催し実際金銭管理を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は十分な説明を行いご利用者様及びご家族の不安等を話し合い、納得していただいた上での契約を行っている。解約時と同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度、家族会を開催しその中で家族の意見・要望を聞くようにしている。意見箱を設置したり、公的苦情相談機関がある事の説明もしている。	家族の訪問時や家族会などで意見や要望が出やすい雰囲気づくりに努め、その中で意見や要望をリーダー会議やミーティング等で検討し、全職員が共有し運営に反映させている。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング等で意見や提案を聞いたり、個別にヒヤリングを行ったりし、リーダー会議やグループホーム会議で検討し運営に反映している。	フロアミーティングの中で職員の意見が出やすい雰囲気づくりに努め、意見や提案を聞き取り、リーダー会議や法人運営会議で検討し運営に反映している。また、個別ヒヤリングもされ意見が言いやすい環境づくりもされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員は年度初めに目標設定提出し、年度末に自己評価し、個々の努力、実績の目標管理を行い、給与水準に反映する体制で向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の力量を把握し、法人内外新人研修や現任研修などの教育委員会があり、年間計画を立て、各職員が積極的に参加出来るよう、又、働きながら、自己啓発を図るよう進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と入居者との交流会を通して、管理者、職員とも交流する機会をつくり、管理者は共通の書類提出や人事などのお互いの悩みなどの相談や相互訪問などの活動を通じてサービスの質の向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前見学及びこちらからの面接を通してご本人、ご家族の要望・要求・質問に対して十分に話し合いをして、安心して暮らせる環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前見学及び面接時等で要望・要求などを十分に話し合いを行い、不安なこと、要望など、何でも相談したり、話し合うような関係づくりを築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人・家族が本当に望んでいるのか本人にとって必要ならば関連事業所や他サービス等と居宅介護支援事業所と連携し適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いせず、本人の意思を尊重しできる事はしていただき、できない事を手助けし一人一人の言葉に傾聴し向き合いながら家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一度家族会を開催している。一緒に夏祭り・花見などの行事に参加して頂き入居者を一緒に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人や教え子、または地域の馴染みの方等面会にこられ本人の居室にてお茶などもてなし、ゆっくりして頂けるよう支援している。	昔馴染みの友人等の受け入れを積極的に行うと共に馴染みの場所へドライブに行ったり今までの関係が途切れない様に支援している。また訪問時には気持ちよく過ごしてもらえるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的にホールにて昔話をされたり歌を唄ったりボール投げをされる等レベルにあった関わり方で馴染んでいられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても情報提供を行ったり、面会や見舞いに行ったり関係サービス事業所や入院であれば関連事業所との連携をとるように図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望・意向を重視して、本人の決定を最優先しながら他入居者との調和が図れるよう本人本位の暮らしぶり、気持ち、思いを大切に検討している	会話の中や顔の表情等から把握し、本人の思いを重視した支援をしている。困難な利用者については家族から聞き取ると共にそれまでの生活歴から把握し本人の意向に沿うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時面接などで本人・家族の情報を元に本人を取り巻く関係・生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力など、申し送り、介護日誌、経過記録、カンファレンスなどで職員が共有し総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を分析し本人・家族・職員・主治医・理学療法士などの意見やアイデアを取り入れその都度現状に即した介護計画を作成する様努めている。	アセスメントで家族の要望や意見を聞き取りそれを基に担当者会議で話し合い、職員の意見を取り入れ作成している。状況変化が起きた場合はその都度、話し合い、医師の意見を聞きながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の内容、生活・経過記録・介護日誌などで共有して気づきや工夫を記入し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の病院、併設の医院、訪問看護、訪問リハビリ、管理栄養士等必要に応じた要望・状態に即して柔軟な対応にて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で保育園、小学校での行事や地域の公民館、ふれあいプラザ、ぬまぐま支所、サンバルホールなどの地域資源を利用して行事・祭りなどの様々な活用して安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医院で本人の負担のないように主治医の訪問診療を受けたり、訪問看護師が健康管理を行ったり、本人の希望があれば、他の医療機関の適切な医療を受けられるように支援している。	殆どの利用者が併設の医療機関で訪問診療が受けられる。また日々訪問看護師による健康管理がされているという万全の医療体制である。かかりつけ医の希望があれば連携を取り支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理のチェック・アドバイスや状態、変化を相談している。また、まり訪問看護ステーションと連携取り、24時間体制で急変時の対応の指示、相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて、同法人内医院、病院との連携は充分取れていて病院のソーシャルワーカー、看護師長、医師との情報交換したり、家族同伴で病状説明をしてもらったりと協力・連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から重度化したり、看取りについて家族の意向を確認している。看取り介護を希望される方には主治医・訪問看護師と連携をとり穏やかな終末期を過ごせるような介護計画を作成し支援に取り組んでいる。	指針を作成され、利用開始時説明をしている。また身体状況を見ながらその都度、本人、家族の意向を確認し必要に応じ、主治医、訪問看護師、職員で話し合い、方針を共有し支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一法人の病院看護師の救急蘇生委員会より勉強会やホームにてAED講習・緊急時対応、マニュアルなどの説明・体験学習を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。昼・夜間の設定を定め消火・非難等行い体験している。地域の方も参加され災害対策の避難場所の経路の確認等、地域の方の協力が得られるように働きかけている	火災訓練は年2回実施し、家族会の役員、地域の方の参加もあり、昼、夜の時間帯を設定し訓練されている。個人データーを作り安全に避難できるよう取り組んでいる。常に地域の方の協力が得られるよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権を尊重した声かけや対応に心がけると共にプライバシーを損ねないように言葉かけ、対応に努めている。	一人ひとりの人格を尊重した対応に心掛け、守るべき情報には注意し、人権意識を徹底するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で本人の希望を優先に外出・買物の支援をしたり、また日常の様子を観察し見守りながら本人の声、表現を引き出したり、意志表現が出来る様誘導したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて水分摂取や食事・入浴など日常的支援したり、不安などがある場合もなるべく個人の希望された内容で支援できる様勤めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた身だしなみに日々気配りしている。又毎月一度理容院に来てもらい希望される方は行われる。他に家族の方が来られ散髪されたり、臨機応変に対応している。又ボランティアでおしゃれサロン等も開催している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族会の行事でお弁当食べたり、誕生日会や季節の行事等の際には入居者の好み、希望によりメニューを決めて作ったり楽しんでいく。	それぞれの力量に応じ、下ごしらえ、テーブル拭き、下膳など個々の力を活かし職員と共にされている。また、食材を話題にし、食を促す声かけをしながら支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士にカロリー計算された食事のメニューを作成してもらい、調理し提供している。食事・水分摂取量は毎日チェックし、体調の変化などある場合は訪問看護師にすぐ相談して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各個人にあわせた方法で声かけや誘導し、歯磨きをしていただく、介助が必要の方は歯ブラシ・ガーゼなどを使用して支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い入居者が心地良く過ごせるよう配慮すると共に極力オムツを使用しないように努めている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かでトイレ誘導され、自立に向けた支援に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の咀嚼の状態に応じ、食事の形態を変えたり水分を加えたりして調節している。他にラジオ体操や歩行の誘導を行い軽い運動を勧め予防している。必要に応じて下剤にて対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に午後になっているが、個人の意見を聞きながら、午前入浴や毎日入られる方など個々に沿った支援している	時間帯は決めているが、希望により自由にまた毎日でも入浴でき個々に合わせた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に合わせた起床、睡眠に努めている。休息についても本人の意思を尊重し気持ちよく過ごせるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が現在の薬について処方箋のファイリングして、確認、把握しており、医師からの指示通りの服薬支援、症状の見守りに努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には、洗濯物を畳んでいただいたり、食事の手伝いなど役割を持っていただき、張り合いや喜びがある日々が過ごせるように努め、時には他ユニットに訪問したり気晴らしや楽しみが出来るよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で本人の訴えがあれば、出来る限り対応している。又家族と相談、協力のうえ外泊をしたり、フロア全体で気分転換にドライブをしたりしている。	本人の習慣、希望、季節、その時の状況に応じた外出支援をしている。お墓参りや親族の結婚式にも家族の協力を得ながら職員も同行され柔軟に対応されている。買い物やドライブ等も日常的にされ気分転換を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々はほとんどお金を持たれないが、外出時にお金の管理ができる方には自分で買物して支払いを行ってもらうよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがあれば都度対応している。話しが通じにくければ職員が間に入ったりしている。年賀状を書ける方には、書いていただいて送って家族から喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に季節の飾りをしたり台所はオープンキッチンになっていてホールから調理している音や匂いを肌で感じていただける様工夫している。ホールの窓も大きく山や海の四季の移り変わりが一望出来て居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関には季節ごとの装飾品が置かれ、窓際にはソファがあり窓から見える馴染みのある風景が眺められる。また料理を作る音や匂いが感じられ生活感のある共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にもソファを置いたりして入居者が自由に使える空間を作っている。一人で日向ぼっこしたり、気のおける入居者と会話されたり思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前本人が使用されていた物や自分でつくられた作品、写真等を飾ったり音楽が好きな方は音楽をかけたったりして居心地よく過ごせるよう工夫している	趣味の作品や記念の写真等が飾られその人らしさが感じられ温かみのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に応じて洗濯物を畳んでいただいたり、ホールを掃除していただいたり出来る範囲で手伝っていただいている。毎日の日課としてゴミだしを職員と一緒に手伝う方もおられる。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域とつながりながら暮らし続けられるよう地域の一員として日常的に交流するよう、付き合いに努めているなかでホームの捉え方にずれがあることもある。	グループホームの実態、生活の様子などを地域の方々に理解を促し、なじみみの関係づくりを築いていく。	地域の方々に認知症についての理解、説明する機会を設けたり、定期的にホームの行事に加わって、地域の一員また尊厳ある一人の人間として付き合うことが出来る配慮をしていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474300245		
法人名	社会医療法人社団沼南会		
事業所名	グループホームぬまくま 4階		
所在地	広島県福山市沼隈町大字常石1284-3		
自己評価作成日	平成22年8月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市沼隈町大字常石1284-3		
訪問調査日	平成22年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海と山に囲まれ、窓からはみかん畑や春には桜が満開で四季折々の風景が眺められ、また町内は活気ある造船の街に位置し、生き生きと生活観が満ちている。ホームは病院を改築して3階、4階、5階の3ユニットからなる。1階に法人内医院が併設して、主治医が常勤でいるので、健康面が安心でき、本人、家族も安心して暮らせることが出来ている。病院が母体で職員育成も研修計画を立て充実した研修体制で職員の向上を図れている。ケアサービスに関しては各階ごとの特徴を活かし、本人の希望を重視し個々の状態に合わせた支援を行っている。家族会も充実して2ヶ月ごとの家族会や花見や夏祭りなど一緒に参加され、外出支援にも協力されている。地域の進水式に参加したり、積極的に地域の行事に参加したり、地域の方も交流会や消防訓練などホームに積極的に来て頂いて認知症の理解を徐々に慣れ親しんでこられて来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(4階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム・ホール・エレベーター内に掲示し常に目の届く所にある為、フロアミーティングやホーム勉強会で共有し実践できるように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や奉仕活動に可能な限り参加している。又、当ホームの行事にも地域の方々に参加して頂き交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招きホームでゲームをしたり、消防訓練にも参加して頂き、一緒に時間を過ごす中で理解をして頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、家族会・地域の方々・包括支援センター職員・社会福祉協議会職員・民生委員の参加により、事業所の状況を知って頂き参加者の意見や要望を開きサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、社会福祉協議会の職員や、保険福祉課担当者と連絡しあい、入居者の状況や金銭管理などの相談・報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について勉強会・講習会等で正しく理解している。又、毎月1回関連グループホーム内で身体拘束廃止委員会を開催し、全職員が身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一内以外の勉強会・講習会にて学ぶ機会を設け、各々学んだ事を日常の言動・態度で虐待につながるがないようお互い確認・指摘しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会・法人内勉強会等で勉強し周知している。必要な方には、社会福祉協議会のかけはし制度や精神障要保険等実際に活用支援行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書・重要事項説明書等の資料に基づいて十分に説明している。不安・問題点等がある場合いつでも聞いて頂けるようにしている。解約時も充分話し合い理解・納得して頂くよう説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームに意見箱を設置、また入居時に公的な苦情・相談機関があることを説明し職員、入居者、家族間で気軽に声かけ合えるような関係を保てるよう促しているその意見を全職員で反映している。必要に応じて全職員で話し合いの場を設け対策を検討している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング等で出された職員の意見をリーダー会議・法人運営会議で検討したり、個別にヒヤリングを行い、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに全職員は今年度の目標設定を提出し、年度末に自己評価、勤務態度、実績評価し、個々の努力や実績の目標管理を行い、給与水準に反映する体制で向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者、職員一人ひとりの力量を把握し、法人内外の新人研修、現任研修など教育委員会で年間計画を立て積極的に参加する機会の確保や働きながら自己啓発を図られることを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と入居者との交流会を通じて、管理者や職員とも交流する機会を作り、管理者は共通の書類提出や人事などの悩みなどお互いに相談や相互訪問の活動を通してサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報を踏まえて本人、家族と面接して生活歴、趣味などの情報収集し、困っていること、不安なこと要望など傾聴し、本人の安心の確保、安全な環境作り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、相談などにより要望・要求に対して話し合いを十分にを行い不安解消となるような関係作りを築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が暮らしやすい環境作りを家族の協力を得て馴染みのお店に行かれるなど必要とする支援を見極め、早めの対応するようつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重しこれまでの生活歴会話の中で生活の知恵や料理、季節の行事などを教えてもらっている。感謝の言葉をかけあいながら、共に支え合う環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時に話をし入居者にとってどうすれば良いか共に考えている。また行事には家族の参加もあり共に支え合う関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会は積極的に受け入れ、ゆっくり話が出来る様な場面を作り関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者全員が楽しめるようなレクリエーションを職員にて考えて、入居者同士のコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了しても時々面会に来られ、話をしたり、その後の様子など報告をされる方もおられる。必要に応じて関連事業所とも相談、支援し、連携を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者自身の希望・意向を大切にし本人の決定を最優先し、他の入居者との調和を図れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面接などにより本人・家族からの情報をもとに得た情報を記録し全職員が把握しながらケアプラン作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の心身状態を考慮し、職員・家族との連携、毎日の申し送り、経過記録等により職員全員が把握し総合的な理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日々の日常生活を記録し、ケアプラン作成時に本人・家族の意見や要望をもとに、ケアカンファレンスやミーティングを行い、現状に即したモニタリングや介護計画を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録・フローシート・介護日誌にて日々の様子など見ながらカンファレンスに活かしており、職員同士にて申し送りノート利用し情報を皆で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の機能(病院・医院・訪問リハビリ・訪問看護等)を活かしたり必要に応じて家族同伴で他の医療機関に行かれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアの方の訪問があったり地域公民館やふれあいプラザの利用したり地域の行事など積極的に交流し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医院により、入居者の負担がかからないように定期的な訪問診療にしている。家族の希望がある際は、他の医療機関の受診を受けて頂ける様、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の医院の看護師が把握しており、毎日の健康チェックも行っている。また、まり看護ステーションと24時間体制で急変時の対応の指示、相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の医院・病院との連携にて、早期退院に向け医師・看護師長・相談員と連絡を取り合って相談している。また、場合によっては家族にも病状説明もしていただけるよう連携する体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際に、重度化・終末期のあり方について話し合っている。また家族の来訪時・家族会等で現状報告を行っている。必要性の出た来た時は、本人・家族と確認し職員と情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の医院へAED設置されている。また入居者の急変や事故発生時のマニュアルを掲示し、職員は周知し応急手当や初期対応行える様法人内救急蘇生委員会から定期的に体験講習を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の医院と地域の方々協力体制のもとで、定期的に防災訓練を行い、避難方法、消火器の扱い方、又災害時の避難場所など理解して頂いたり協力して頂くよう働きかけている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重して、声かけや対応に注意しながらプライバシーに考慮するように心がけ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望により外出支援やおやつの手作りを一緒に作ったりして自分で納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、ゆっくり寝ていたい人・食事も今食べたくない人など時間をずらし希望に合わせてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着て頂いており、外出時はお出かけ用に自分で納得された服を着ていただくよう、また、季節に合った洋服を着て頂く様に支援している。外出時に化粧される方もおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備(皮むき・もやしの根取り・食材分け)など出来る方には、無理強いせずにして頂いている。また下膳・テーブル拭きも手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士によるカロリー計算されたバランスの取れた食事を摂取している。水分確認は毎回水分量チェックし、一日の水分摂取量を量っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方には声かけを行い歯磨きして頂く。介助必要な方には義歯洗浄・うがいを行っている。義歯使用の方は每晚預かり義歯洗浄剤にて消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。介助が必要な方は陰部洗浄し常に清潔を保つよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操・ストレッチなど行い便秘予防に努めている。また水分補給にも十分配慮している。各自の排便チェックを行い必要に応じて下剤使用にて排便の調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状態により入浴介助を行っている。普段は午後入浴であるが、希望者には午前入浴も行う事がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせた起床・睡眠に努めている。休息についても本人に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理が出来ない方には、職員が管理し個々人の薬の文献に常に目を通し効能・副作用について確認理解し、服薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず出来る方には洗濯物たたみ・テーブル拭き等の手伝いをして頂いている。また、歌・ゲームなど気晴らしが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、希望あれば散歩・買物などの支援を行っている。本人の希望で家族と毎月命日に墓参りされたり、買い物に行かれる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方には管理して頂き、希望により買物にも同行し自分で選び支払い出来るよう支援している。また、管理できない方には預かり金にて職員が管理行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には自由に使用して頂いている。介助が必要な方には、本人の伝えたいことを尋ね支援している。又、希望で携帯電話を使用されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階のエレベーター前には、季節の花や季節の飾り物を飾っている、ホールや廊下には絵画・入居者の作品・写真などを飾り付け、明るく快適な生活を送って頂けるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日差しの良い所へ椅子・ソファー・机を置き入居者が一人でくつろいだり、気のあった入居者とおしゃべりしたり自由に楽しく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスや仏壇などを持って来られ、また家族の写真なども置かれ居心地よく過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状況に応じて洗濯物を畳んで頂いたり、ホールを掃除して頂いたり出来る範囲で手伝って頂いている。毎日の日課としてゴミ出しを職員と一緒に手伝う方もおられる。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474300245		
法人名	社会医療法人社団沼南会		
事業所名	グループホームぬまくま 5階		
所在地	広島県福山市沼隈町大字常石1284-3		
自己評価作成日	平成22年8月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市沼隈町大字常石1284-3		
訪問調査日	平成22年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海と山に囲まれ、窓からはみかん畑や春には桜が満開で四季折々の風景が眺められ、また町内は活気ある造船の街に位置し、生き生きと生活観が満ちている。ホームは病院を改築して3階、4階、5階の3ユニットからなる。1階に法人内医院が併設して、主治医が常勤でいるので、健康面が安心でき、本人、家族も安心して暮らせることが出来ている。病院が母体で職員育成も研修計画を立て充実した研修体制で職員の向上を図れている。ケアサービスに関しては各階ごとの特徴を活かし、本人の希望を重視し個々の状態に合わせた支援を行っている。家族会も充実して2ヶ月ごとの家族会や花見や夏祭りなど一緒に参加され、外出支援にも協力されている。地域の進水式に参加したり、積極的に地域の行事に参加したり、地域の方も交流会や消防訓練などホームに積極的に来て頂いて認知症の理解を徐々に慣れ親しんでこられて来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(5階)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム・ホール・エレベーター内に掲示常に目の届く所にある為、フロアミーティングやホーム勉強会で共有し実践できるように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や奉仕活動に可能な限り参加している。今年度から町内定例会に毎月参加している。又、当ホームの行事にも地域の方々に参加して頂き交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招きホームでゲームをしたり、消防訓練にも参加して頂き、一緒に時間を過ごす中で理解をして頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、家族会・地域の方々・包括支援センター職員・社会福祉協議会職員・民生委員の参加により、事業所の状況を知って頂き参加者の意見や要望を開きサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、社会福祉協議会の職員や、保険福祉課担当者と連絡しあい、入居者の状況や金銭管理などの相談・報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について勉強会・講習会等で正しく理解している。又、毎月1回関連グループホーム内で身体拘束廃止委員会を開催し、全職員が身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一内以外の勉強会・講習会にて学ぶ機会を設け、各自学んだ事を日常の言動・態度で虐待につながるがないようにお互い確認・指摘しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会・法人内勉強会等で勉強し周知している。必要な方には、社会福祉協議会のかけはし制度や精神障要保険等実際に活用支援行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書・重要事項説明書等の資料に基づいて十分に説明している。不安・問題点等がある場合いつでも聞いて頂けるようにしている。解約時も充分話し合い理解、納得して頂くよう説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームに意見箱を設置、また入居時に公的な苦情・相談機関の説明し、職員、入居者、家族間で気軽に声かけ合えるような関係を保てるよう促している。必要に応じて全職員で話し合いの場を設け対策を検討している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーミーティング等で出された職員の意見をリーダー会議・法人運営会議で検討したり、個別にヒヤリングを行い、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに全職員は今年度の目標設定を提出し、年度末に自己評価、勤務態度、実績評価し、個々の努力や実績の目標管理を行い、給与水準に反映する体制で向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者、職員一人ひとりの力量を把握し、法人内外の新人研修、現任研修など教育委員会で年間計画を立て、積極的に参加する機会の確保や働きながら自己啓発を図られることを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と入居者との交流会を通じて、管理者や職員とも交流する機会を作り、管理者は共通の書類提出や人事などの悩みなどお互いに相談や相互訪問の活動を通してサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報を踏まえて本人、家族と面接して生活歴、趣味などの情報収集し、困っていること、不安なこと要望など傾聴し、本人の安心の確保、安全な環境作り、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人、家族等と面接し、要望・要求に対して話し合いを十分にいき不安解消となるような関係作りを築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人が暮らしやすい環境作りを家族の協力を得て馴染みのお店に行かれるなど必要とする支援を見極め、早めの対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、これまでの生活歴や会話の中で生活の知恵や料理、季節の行事などを教えてもらっている。感謝の言葉をかけあいながら、共に支え合う環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の絆を大切にしながら、ホームの生活にもかかわっていただき、行事等にも一緒に参加していただくよう共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの地域や生まれ育った実家、馴染みの場所などにドライブしたり、馴染みの友人などの面会は積極的に受け入れ、ゆっくり話が出来る様な場面を作り関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握して、昔ゲームや歌、古い行事等一緒に歌ったり話したり、入居者全員が楽しめるようなレクリエーションを職員にて考えて、お互いにコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了しても時々面会に来られ、話をしたり、その後の様子など報告をされる方もおられる。必要に応じて関連事業所とも相談、支援し、連携を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望・意向を大切にし本人の決定を最優先し、本人本位の暮らしぶり、気持ち、思いを大切に他の入居者との調和を図れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面接などにより本人・家族からの情報をもとに得た情報、本人と会話、暮らしぶり等をもとに全職員が把握しながらケアプラン作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の過ごし方、心身状態、有する力を考慮し、職員・家族との連携、毎日の申し送り、経過記録等により職員全員が把握し総合的な理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日々の日常の生活を記録し、ケアプラン作成時に本人・家族の意見や要望をもとに、ケアカンファレンスやミーティングを行い、現状に即したモニタリングや介護計画を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録・フローシート・介護日誌にて日々の様子など見ながらカンファレンスに活かしており、職員同士にて申し送りノート利用し情報を皆で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の機能(病院・医院・訪問リハビリ・訪問看護等)を活かしたり必要に応じて家族同伴で他の医療機関に行かれるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアの方の訪問があったり地域公民館やふれあいプラザの利用したり地域の行事など積極的に交流し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医院により、入居者の負担がかからないように定期的な訪問診療にしている。家族の希望がある際は、他の医療機関の受診を受けて頂ける様、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の医院の看護師が把握し変化があれば直ちに連絡が取れるようしている。毎日の健康チェックも行っている。また、より看護ステーションと24時間体制で急変時の対応の指示、相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の医院・病院との連携にて、早期退院に向け医師・看護師長・相談員と連絡を取り合っており相談している。また、場合によっては家族にも病状説明もしていただけるよう連携する体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際、重度化・終末期のあり方について話し合っている。また家族の来訪時・家族会等で現状報告を行っている。必要性の出た時は、本人・家族と確認し職員と情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の医院へAED設置されている。また入居者の急変や事故発生時のマニュアルを掲示し、職員は周知し応急手当や初期対応行える様法人内救急蘇生委員会から定期的に勉強会や体験講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の医院と地域の方々協力体制のもとで、定期的に消防訓練行い、通報、避難方法、消火器扱い方など行う。、又災害時の避難場所など理解して頂いたり協力して頂くよう働きかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重して、声かけや対応に注意し、記録などの個人情報の取り扱いに注意しながら誇りやプライバシーに考慮するように心がけ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で本人の希望により外出、買い物や季節の祝い事など柏餅作りをしたり、ちぎり絵、ゲームなど皆で好きな物、皆でおやつの手作りを一緒に作ったりして自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、水分摂取、食事、入浴など本人本位の過ごし方を優先するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着て頂いており、外出時はお出かけ用に自分で納得された服を着ていただくよう、また、季節に合った洋服を着て頂く様に支援している。外出時に化粧される方もおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備(皮むき・もやしの根取り・食材分け)など出来る方には、無理強いせずにして頂いている。また下膳・テーブル拭きも手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士によるカロリー計算されたバランスの取れた食事を摂取している。水分確認は毎回水分量チェックし、一日の水分摂取量を量っている、。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方には声かけを行い歯磨きして頂く。介助必要な方には義歯洗浄・うがいを行っている。義歯使用の方は毎晩預かり義歯洗浄剤にて消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握していて、定期的にトイレ誘導を行っている。介助が必要な方は陰部洗浄し常に清潔を保つよう支援している。極力オムツは使用しないよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操・ストレッチなど行い便秘予防に努めている。また水分補給にも十分配慮している。各自の排便チェックを行い必要に応じて下剤使用にて排便の調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状態により入浴介助を行っている。普段は午後入浴であるが、希望者には午前入浴も行う事がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせた起床・睡眠に努めている。休息についても本人に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理が出来ない方には、職員が管理し個々人の薬の文献に常に目を通し効能・副作用について確認理解し、服薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず出来る方には洗濯物たたみ・テーブル拭き等の手伝いをして頂いている。また、歌・ゲームなど気晴らしが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、希望あれば散歩・買物などの支援を行っている。本人の希望で家族と毎月命日に墓参りされたり、買い物に行かれる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方には小銭を持たれて管理して頂き、希望により買物にも同行し自分で選び支払い出来るよう支援している。また、管理できない方には預かり金にて職員が管理行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には自由に使用して頂いている。介助が必要な方には、本人の伝えたいことを尋ね支援している。又、希望で携帯電話を使用されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階のエレベーター前には、季節の花や季節の飾り物を飾っている、ホールや廊下・居室には絵画・入居者の作品・写真などを飾り付け、明るく快適な生活を送って頂けるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓側に椅子・ソファ・テーブルを置き入居者が一人でくつろいだり、気のあった入居者とおしゃべりしたり自由に楽しく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスや仏壇などを持って来られ、また家族の写真なども置かれ家庭と同じよう居心地よく過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からないかたには飾りをつけて目印したり、張り紙など工夫している。一人一人の状況に応じて洗濯物を畳んで頂いたり、ホールを掃除して頂いたり毎日の日課としてゴミ出しを職員と一緒に手伝う方もおられる。		